

学校教育目標	・みんなと協力する子 ・自分で考える子 ・心身ともに健康な子 ・人との関わりを大切にする子
目指す学校像	・一人ひとりの児童が瞳を輝かせて活動する学校 ・教職員が常に学び続け、やりがいを感じる学校 ・保護者や地域とともに歩む学校
重点目標	1 主体的・対話的で深い学びの実現 2 児童の自己成長をサポートする発達支持的生徒指導の推進 3 家庭、地域、学校が強い絆で結ばれた「みんなで作る みんなの与野西北小学校」の推進 4 児童の Well-being の基盤となる安心・安全な教育環境の整備 5 教職員の資質向上と働きがいのある職場の構築

※重点目標は6つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心をサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

		学 校 自 己 評 価				学校運営協議会による評価	
		年 度 目 標		年 度 評 価		実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<現状> ○令和7年度全国学力・学習状況調査の学力に関する調査は、全国平均と概ね同水準である。 ○校内研修では、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の研究に取り組み、昨年研究の成果を発表した。 <課題> ○児童の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、昨年までの研究成果を踏まえ、一層の授業改善に取り組む必要がある。 ○新しくなったタブレット端末の有効活用について、研究を進める必要がある。	○主体的・対話的で深い学びの推進 ○ICT機器の効果的な活用	○3年間の校内研究の成果を踏まえ、校内研修を進め、更なる授業改善を実現する。 ○定着してきた「アウトプット型」授業を継続し、主体的・対話的な学びを推進し、深い学びを実現する。 ○校内研修を行い、全教員が1人1台のタブレット端末を有効に活用した授業を実施する。 ○クラウドを活用した学習を推進し、様々な考えに触れながら、児童の主体的な学びを実現する。	○教職員の研修に係るアンケートで、肯定的回答が9割以上となったか。 ○学校評価の授業に関する質問において、児童、保護者、学校関係者、教職員の肯定的回答が9割以上となったか。 ○「学びの指標」のICTに関するアンケート結果が昨年度を上回ることができたか。(R7:3.10㊦) ○学校評価のICTに関する質問に教職員の「そう思う」の回答が昨年度を上回ることができたか。(R7:62.2㊦)			
2	<現状> ○令和7年度全国学力・学習状況調査の質問「学校に行くのが楽しい」「自分には、よいところがあると思う」への肯定的回答の割合が、全国と比較すると、高い水準にある。 ○今年度から、重点目標として「自ら考え進んで行動するエージェンシーの育成」を掲げて教育活動を行っている。 <課題> ○児童一人ひとりに適切な支援を組織的に行う。	○発達支持的生徒指導の推進 ○いじめを許さない学校風土の醸成	○すべての児童のよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支えるように働きかけを行う。 ○アンケートや日頃の授業、コミュニケーションを通して、児童理解を深め、組織的に支援・対応を行う。 ○6月・10月のいじめ撲滅強化月間に、児童会を中心に、児童が主体的にいじめを考える活動を実施する。 ○講話朝会での校長による講話等、年間を通して、「いじめを絶対にゆるさない」という学校風土を醸成していく。	○学校評価の生徒指導・教育相談に関する質問への肯定的回答が昨年度を上回ることができたか。(R7:95㊦) ○発達支持的生徒指導を推進するために、学年を中心に、組織的に指導・対応を行うことができたか。 ○児童会が中心となって、いじめ撲滅に向けた活動を行うことができた。 ○学校評価におけるいじめ・人権教育に関する肯定的回答が昨年度を上回ることができたか。(R7:96㊦)			
3	<現状> ○八王子中学校との合同学校運営協議会で、子どもの9年間の育ちを見通して、子どものエージェンシーを育むための熟議が行われている。 ○「みんなで作る みんなの与野西北小学校」を合言葉に、家庭、地域と連携が図られ、様々な活動が行われている。 <課題> ○学校運営協議会を核として、学校、家庭、地域の連携強化が図られるような、持続可能な体制の構築が必要である。	○学校の課題解決に向けた学校運営協議会の運営 ○児童の参画意識を育む児童参加型のコミュニティ・スクールの実現	○コミュニティ・スクールの活動を、学校便りや学校ホームページ、保護者懇談会等の機会を活用し、家庭、地域への一層の周知を図る。 ○学校運営協議会での熟議により、学校の課題解決に向けた実践を行う。 ○児童が学校運営協議会に関わる機会を通して、児童・教職員の参画意識を育む。	○学校評価の「みんなで作るみんなの与野西北小学校」に関して、肯定的回答が昨年を上回ることができたか。(R7:98㊦) ○学校運営協議会で、学校の今日的課題を熟議することができたか。 ○児童が学校運営協議会に参加し、熟議を行うことができたか。 ○学校評価の「地域と共にある学校」に関して、教職員の「そう思う」の回答が6割を上回ることができたか。			
4	<現状> ○経年劣化による施設、設備の老朽化が見られるが、毎月の安全点検や日々の点検によって安全な環境が保たれている。 ○花いっぱいプロジェクトをはじめ、校内の緑化整備が行われ、緑豊かで四季折々の花々が咲く豊かな環境が整備されている。 <課題> ○校舎のリフレッシュ工事がR16年に延期となり、計画的な補修・改善工事が必要である。	○安心・安全な教育環境の整備 ○児童の情操を育む豊かな環境の整備	○毎月10日までに安全点検を実施する。また、日常的な点検を行い、危険箇所、破損箇所については、即時対応を行う。 ○児童が行う美化・清掃活動や校内緑化運動の充実を図る。 ○地域との連携、ボランティア活動への参加等を通して、児童の情操を育む。	○毎月安全点検を行い、危険箇所等を把握し、即時対応することができたか。 ○修繕が必要な箇所は、関係機関と連携し、安全な環境を整備できたか。 ○児童が、花いっぱい活動等に参加し、豊かな環境整備することができたか。 ○学校評価の美化・清掃活動に関する肯定的回答が昨年度を上回ることができたか。(R7:97㊦)			
5	<現状> ○教職員の研修意欲が高く、公開授業や研究授業を通して、授業スキルの向上を図っている。 ○高学年教科担任制をはじめ、全学年において学年内交換授業等を実施し、専門性を高めている。 <課題> ○教職員の業務が多岐にわたり、本来業務に集中できない状態にあるため、大幅な業務の見直しが必要である。	○研修や校内OJTによる、教職員の指導力向上 ○「量から質へ」教育活動の見直し	○全教員が授業を公開し、意見交流を行い、授業スキルの向上を実現する。 ○教科担任制、専科教員の配置、学年内交換授業等を行う体制を整え、校内OJTを推進する。 ○教育活動の見直しや業務改善を一層推進し、教育の質の向上を実現する。 ○「さいたま市立学校における働き方改革マスタープラン」に沿って、教職員の勤務時間等を管理し、働きやすい環境を整備する。	○全教員が授業公開を2回以上、授業参観を3回以上実施し、意見交換をおこなうことができたか。 ○教職員が、自身の指導力の向上を実感することができたか。 ○教育活動・学校事務等の見直しを行い、10企画以上の改善を実現することができたか。 ○教職員が、業務改善が進んだと実感することができたか。			

